

令和元年度(2019年度)第1回北海道子どもの未来づくり審議会  
子ども・子育て支援部会 議事概要

日 時 令和元年5月28日(火) 16:00~17:40

場 所 かでる2・7 730号会議室

出席委員 松本部会長 / 辻委員 / 宮崎委員 / 亀井委員 / 松本委員 / 前田委員 /  
木村委員 / 白井委員 / 山田委員 / 末原委員 / 高階委員 / 八乙女委員 /  
神林委員 /

事務局 鈴木子ども子育て支援課長 ほか10名

議 事

審議事項

(1) 副部会長の選出について

○松本部会長から札幌国際大学人文学部教授の 品川ひろみ氏 の推薦があり、全員からの承認により副部会長に選出。

(2) 第三期「北の大地☆子ども未来づくり北海道計画」の評価について

○事務局から、資料1-1及び資料1-2の説明

○委員の主な発言(要旨)

- ・ 札幌と、それ以外の市町村とで、同じ計画で進め、同じ物差しで評価することには無理があるのではないか。
- ・ 大半の項目で、進捗状況が100%に近い数値となっているが、全体の出生数は減っているため、そもそもの目標数値は正しいものだったのか疑問がある。
- ・ 数値目標として、夜間保育が10カ所、休日保育が55カ所となっており、全道一円で考えると、実施できる又は実施を必要としているエリアが少なく、ピンポイントでの実施なのかと思われる。10月からの無償化に向けて、施設がある地域は無償化の対象となり、施設がない地域は対象とならず、保護者が居住地を変えざるを得ないなど、不利益を被ることになるのではないか。

(3) 第四期「北の大地☆子ども未来づくり北海道計画」策定の基本的な考え方について

○事務局から、資料2-1から2-6まで説明

○委員の主な発言(要旨)

- ・ 育児休業の整備率が高くなったから問題がなくなるということではなく、子育ての

中に問題がある。親子が一緒にいても、困りは存在するので SOS をしっかり受け止める必要がある。市町村が目配り気配りを行うことを盛り込む必要があるのではないか。

- ・ 無償化に伴う低所得者への給食費支援を盛り込むべきではないか。
- ・ 「次世代教育の推進」でライフデザインのことが記載されているが、具体的に 20 歳からなのか小学生からなのかがはっきりしない。いつから何をするのか。
- ・ 北海道全体の計画として理解できるが、過疎地域と札幌市とで、状況が違うのではないだろうか。まちのあり方を、市町村が検討する必要があるのではないか。
- ・ 鈴木知事から、新しい施策があるのか。
- ・ 子どもを生み育てるために、結婚よりもパートナーシップの拡大を考えるべきではないか。幸せな子どもを増やすために、制度にとらわれることなく、人同士が協力・連携し合うことが大事ではないか。
- ・ 少子化対策という観点だけでなく、多子世帯への配慮も必要ではないか。多子世帯は、経済的な負担や子育てなど、非常に大変だと思う。

#### (4) 次期市町村子ども・子育て支援事業計画の策定状況について

○事務局から、資料 3 の説明

○委員の主な発言（要旨）

- ・ 保育所等の職員配置特例に関して、待機児童の有無に関わらず、子育て支援員を常態として使えるようにすることが大切ではないか。事業者と子育て支援員の双方が継続的任用を望んでいる。

#### (5) 子育て支援員研修に係る実態調査結果について

○事務局から、資料 4 の説明

○委員の主な発言（要旨）

- ・ 資料は、子育て支援員研修修了者に対する就労動向に関するアンケート結果であるが、研修内容そのものに関するアンケートも必要ではないか。